

# 住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2047号 2010年12月13日(月)

## 《 FOMC on Monday 》

先週既に来年一年間の為替相場予想も出しましたし、今週は短く記述します。何せ指標発表が多い。FOMCはまだQE2の効果を見ている段階であって、新たな措置は打ち出されたいでしょう。そもそもQE2に対する評価もFRBが予想した以上に批判が多くて「FEDは良くやった」という雰囲気ではない。よって、今回は声明文で今の米景気にどういう判断をするかが注目される。「雇用以外は案外良い」という見方がある一方で、住宅市場の現状などまだ警戒的な見方も残っている。その景況を前回とはどう違う表現で声明の第一パラグラフに記述するのか。FOMCの見方が分かる。

指標はたくさん出るが、11月の小売売上高は一年で一番モノが売れる時期が既に始まっているだけに、「アメリカの消費の強さ」を見る上では重要だろう。株価が上がっている分、資産を株で運用しているアメリカでは消費が伸びやすい面があるが、失業率は高いままで消費の伸びを抑制する要因がある。ブッシュ大型減税の延長が方向として出てきたことで、アメリカの長期金利が上昇を開始しているが、その当面の天井がどこにあるかを見る上でも注目される週だ。ただし先週も書いたが、「金利差拡大」を背景とする円安はそろそろパワーを失いつつある。先週も2回84円台を見たが、いずれも長持ちしなかった。まだまだドルの上値に関する市場の見方は限定的だ。

日銀短観は一連の景気刺激策（エコ車減税、家電エコポイントなど）がほぼ切れた後の景況を日本の企業がどう見ているかを見る上で注目される。全般には企業は来年の景気を円高の服感もあって今年よりは強気で見ている可能性が高いが、実際はどうなのか。ただし日本の金利の上げ幅は世界各国から見て限定的になるだろう。

中国のインフレ率は、食料品を中心に11月に大幅に上昇し、上昇率は5.1%と政府の目標である3%を大幅に上昇した。これで5ヶ月連続の目標超過。特に11月は食料品が11.7%も上昇した。中国国家统计局のスポークスマンは、「11月の物価がこんなに上昇するとは、多くの人が予想しなかった」と意外性を強調している。しかしこれは民衆の食生活に響く大きな問題であり、景気への打撃も予想される。その一方で金融の引き締め姿勢はゆるめられない。先週も中国は今年に入って6回目の預金準備率の引き上げを行った。今回の引き上げ幅は0.5%だった。

ただし、中国は成長率を7%より下にするような厳しい引き締めをしないだろう。今の中国の体制は、民衆に「成長の果実」を味あわせることを「統治の正当性」にしている、成

長率の低下は失業者の増大となって政権基盤を揺るがすことになりそうだ。そのさじ加減が難しい。欧州ではギリシャでのゼネストが予定されている。

---

今週の主な予定は以下の通り。

- |            |   |
|------------|---|
| 1 2月14日（火） | 1 0月鉱工業生産（確報）・設備稼働率<br>1 1月首都圏マンション販売<br>米1 1月生産者物価<br>米1 1月小売売上高<br>米1 0月企業在庫<br>米FOMC<br>インド1 1月卸売物価                            |
| 1 2月15日（水） | 日銀短観<br>1 0月第3次産業活動指数<br>米1 1月消費者物価<br>米1 1月実質所得<br>米1 2月NY連銀製造業景気指数<br>米1 1月鉱工業生産・設備稼働率<br>米1 2月NAHB住宅市場指数<br>ギリシャで緊縮財政反対の24時間スト |
| 1 2月16日（木） | 米1 1月住宅着工件数<br>米1 1月建設許可件数<br>米1 2月フィラデルフィア連銀指数<br>1 1月北米半導体製造装置BBレシオ<br>EU首脳会議（17日まで）<br>EU財務相理事会<br>インド政策金利発表                   |
| 1 2月17日（金） | 1 1月日本製半導体製造装置BBレシオ<br>米1 1月コンファレンスボード景気先行指標総合指数  |

《 have a nice week 》

いよいよ押し迫ってきましたね。この「ニュース」も年内あと一回でしょうか。年末年始は、しばらく行っていなかったので欧州で過ごそうと思っていて、特にスペインに滞在する予定です。29日に入ってそこから4日ほどマドリッドにいます。そのころスペインがどうなっているか分かりませんが、イギリス、ドイツによく行く私も南欧はあまり行ったことがない。いろいろと見てこようと思っています。マドリッド近郊にお住まいの方で、時間がある方はご連絡頂ければと思います。

---

ところでこの週末は衝動買いもあり、結局リーダー（ソニー製）とガラパゴス（シャープ製）の両方が目の前にある状態になったので、相次いで設定をして使い心地を検証して遊んでいました。本をそれぞれ3冊程度買ったかな。目的が違うので単純な比較は出来ませんが、本を読むマシンとしてはリーダーが優れているように思う。薄くて軽い。ただしリーダーはあくまで母艦がPCです。PCのsonyサイトのebookstoreにアクセスし、PCから買った本を流し込む為に、マシンの認証やらソフトウェアのダウンロードがあり、かつ支払い環境の整備があって、やっと本がダウンロードできる。

全体的には問題なく進んだのだが、リーダーのハードに最初にロックをかけたら、認証がうまく進まない状態になった。マシンの認証の際には、ロックを外しておくのが賢明です。リーダーはoptionsから「ノート」さらに「作成・編集」にすると、ページ折り、文章マーク、落書きなどが出来る機能がある。これは面白そう。私は興味深い本のページの上外側の端を折る癖があるので、このマシンだとそれが出来る。ガラパゴスにも「本読みマシン」に相応しい機能が入っている。なかなか面白い。まだ全部は私も分かっていない。ガラパゴスは二機種あって私のは小さい方なのですが、ちょっとリーダーよりは縦長。かつ重い。リーダーが文庫サイズに対して、ガラパゴスは新書を一回り小さくしたサイズ。ガラパゴスはカラー表示で綺麗だが、やや持ちにくい感じがする。このマシンは、母艦というものがない。wifiを設定して、端末認証すると、それ自身がTSUTAYA GALAPAGOSのサイトに接続して、支払い環境を整えて本を選ぶと、本体にダウンロードされる形になっている。

週末にちょっといじった段階の話ですが、正直言ってどちらでも欲しい本があまりみつからない。せっかくだから、「本を買おう」「だからいい本がリストにあれば…」と探した。両方に10冊くらいは入れてやりたい。しかし「これ」って本がない。ま、日本の場合は主要な出版社もまだ電子書籍に力を入れていないから仕方がない面もあるのだが。

ツイッターでこのことを嘆いたら、「伊藤さんは”自炊”をしないんですか」といった声も聞こえてくる。「自炊」とは、「自分で漫画や雑誌、書物などを電子化する」ことを意味するのですが、私はまだ時間がなくて始めていない。そこで思ったのですが、「そうだ、自分の書いた本くらい”自炊”しよう」「それをリーダーとガラパゴスに入れるって言うのは意味があるかもしれない」と思いました。“自炊”はもう始めている人もいます。週末二日間の使用感をまとめると

1. リーダーは、部屋が暗いと読めない。これはe-inkを使っている関係で、ipadやガラパゴスと決定的に違っている点。これらは光を持つ
2. リーダーは、暗い部屋で使おうと思ったら専用の「純正オプションでLEDライト付きブックカバー」が必要なような
3. ガラパゴスは光を持っているので暗い部屋のベッドの中でも読めるが、その分バッテリーの減り方が速い。これはipadも同じ

4. 両方のマシンとも、ページへの「しおり」「マーカー」などなど昨日紹介した以外にも「本読みのマシン」としての特性がある

今はまだ全体的には「飛びつくほどの商品の魅力」には欠けるものの、電子書籍は世の中を変える力になると思う。例えば、読める本のラインアップが揃ってくれば、そして各社がハード各社に共通に電子書籍を供給し始めれば、例えば海外にいる日本人などは別に物理的に本を日本から送ってもらえなくても、どんな本屋のない環境でも、日本の本を簡単に読めるようになる。これはメリットでしょう。雑誌も同じ事です。紙の本と電子辞書ではいろいろ違う。両方が生き残る可能性が高い。

それでは、皆様には良い一週間を。

*《当「ニュース」は住信基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》*